

## Sun Fire X4470 M2 サーバー

ご使用にあたって、ソフトウェアリリース 1.0



Copyright © 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複製、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. Government Rights. Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。



Adobe PostScript

# Sun Fire X4470 M2 サーバーご使用にあたって

---

ここでは、Oracle の Sun Fire X4470 M2 サーバーでサポートされるソフトウェアおよびファームウェアと、操作に関する重要なガイドラインについて説明します。

また、サーバーに関する既知の問題についても示します。各問題は、保守担当者の参照用に提供されている、変更要求 (Change Request, CR) 番号と関連付けられています。必要に応じて、保守担当者が詳細情報を確認するために、CR 番号を尋ねることがあります。

この文書には次のセクションがあります。

- [2 ページの「含まれるサードパーティーテクノロジー」](#)
- [3 ページの「製品のダウンロード」](#)
- [4 ページの「ドキュメントとフィードバック」](#)
- [4 ページの「サポートとトレーニング」](#)
- [4 ページの「サポートされているオペレーティングシステム」](#)
- [6 ページの「サポートされるファームウェアおよびソフトウェア」](#)
- [7 ページの「サポートされるメモリー構成」](#)
- [7 ページの「サポートされている PCIe カード」](#)
- [11 ページの「ソフトウェアリリース 1.0 時点での既知の未解決の問題」](#)

---

## 含まれるサードパーティーテクノロジー

この製品には、サードパーティーのライセンス契約に関する条件または通知に従うサードパーティーテクノロジーが付属している場合があります。この製品を使用する前に、次の URL で入手できるドキュメントで、この製品に適用されるサードパーティーの通知とライセンスをお読みください。

<http://www.oracle.com/technetwork/indexes/documentation>

インターネットにアクセスできない場合、次の宛先に、この製品に関するサードパーティーの通知およびライセンスをコピーした書面の送付を依頼することができます。

Oracle America, Inc.  
Attn: Associate General Counsel  
Development and Engineering Legal  
500 Oracle Parkway, 10th Floor  
Redwood Shores, CA 94065

---

# 製品のダウンロード

すべての Oracle x86 サーバーおよびサーバーモジュール (ブレード) 用のダウンロードは、My Oracle Support (MOS) にあります。MOS には 2 種類のダウンロードがあります。

- ラック搭載サーバー、サーバーモジュール、モジュラーシステム (ブレードシャーシ)、または NEM (Network Express Module) に固有のソフトウェアリリースバンドル。これらのソフトウェアリリースバンドルには、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)、Oracle Hardware Installation Assistant、および他のプラットフォームのソフトウェアとファームウェアが含まれます。
- 複数のタイプのハードウェアに共通のスタンドアロンソフトウェア。このソフトウェアには、Hardware Management Pack と Hardware Management Connectors が含まれます。

## ▼ ソフトウェアとファームウェアのダウンロード

1. <https://support.oracle.com> にアクセスします。
2. My Oracle Support にサインインします。
3. ページの上部で、「Patches and Updates (パッチと更新)」タブをクリックします。
4. 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Product or Family (Advanced Search (製品またはファミリ(高度な検索)))」を選択します。
5. 「Product? Is (製品は?)」フィールドで、完全な製品名 (たとえば、Sun Fire X4470 M2) を入力するか、または一致する製品名の一覧が表示されるまで、製品名の一部を入力してから、該当する製品を選択します。
6. 「Release? Is (リリースは?)」プルダウンリストで、下矢印をクリックします。
7. 表示された画面で、製品フォルダアイコンの隣にある三角印 (>) をクリックし選択肢を表示してから、該当するリリースを選択し、「Close (閉じる)」をクリックします。
8. 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Search (検索)」をクリックします。製品ダウンロードデータのリスト (パッチとしてリストされる) が表示されます。
9. Sun Fire X4470 M2 SW 1.0 リリースの目的のパッチ名を選択します。
10. 表示された右側のウィンドウで、「Download (ダウンロード)」をクリックします。

---

## ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle ドキュメント	<a href="http://www.oracle.com/documentation">http://www.oracle.com/documentation</a>
Sun Fire X4470 M2 サーバー	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E20781-01&amp;id=homepage">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E20781-01&amp;id=homepage</a>
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19860-01&amp;id=homepage">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19860-01&amp;id=homepage</a>

このドキュメントについてのフィードバックは、次の場所ですenderことができます。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

---

## サポートとトレーニング

これらの Web サイトでは追加リソースを提供しています。

- サポート: <https://support.oracle.com>
- トレーニング: <https://education.oracle.com>

---

## サポートされているオペレーティングシステム

ここでは、各ソフトウェアリリースでサポートされるオペレーティングシステムの一覧を示します。次の情報について説明します。

- [5 ページの「ソフトウェアリリース 1.0 サポートされているオペレーティングシステム」](#)
- [6 ページの「使用できるプリインストール済みオペレーティングシステム」](#)

Sun Fire X4470 M2 サーバーのサポートとパッチについては、次の URL にアクセスしてください。

<http://support.oracle.com>

# ソフトウェアリリース 1.0 サポートされている オペレーティングシステム

表 1 は、ソフトウェアリリース 1.0 の時点で Sun Fire X4470 M2 サーバーでサポートされるすべてのオペレーティングシステムの一覧です。

注 – Sun Fire X4470 M2 サーバーのサポートされるオペレーティングシステムの最新リストについては、Sun Fire x86 ラックマウントサーバーの Web サイトにアクセスし、Sun Fire X4470 M2 サーバーのページを参照してください。

(<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>)

表 1 ソフトウェアリリース 1.0 の時点でサポートされているオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	サポートされているバージョン	追加情報
Oracle Solaris	<ul style="list-style-type: none"><li>• Oracle Solaris 10 09/10 (64 ビット)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Sun Fire X4470 M2 サーバーインストールガイド (Oracle Solaris オペレーティングシステム)</li></ul>
Linux	<ul style="list-style-type: none"><li>• Oracle Unbreakable Enterprise Kernel (64 ビット)</li><li>• Oracle Linux 5.5 (64 ビット)</li><li>• SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP1 (64 ビット)</li><li>• Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5/6.0 (64 ビット)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Sun Fire X4470 M2 サーバー Linux オペレーティングシステムインストールガイド</li></ul>
仮想マシンソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"><li>• Oracle VM 2.2.1 (64 ビット)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Sun Fire X4470 M2 サーバー仮想マシンソフトウェアインストールガイド</li></ul>
Windows	<ul style="list-style-type: none"><li>• Microsoft Windows Server 2008 SP2/R2、Standard Edition、64 ビット</li><li>• Microsoft Windows Server 2008 SP2/R2、Enterprise Edition、64 ビット</li><li>• Microsoft Windows Server 2008 SP2/R2、Datacenter Edition、64 ビット</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Sun Fire X4470 M2 サーバー Windows オペレーティングシステムインストールガイド</li></ul>

# 使用できるプリインストール済みオペレーティングシステム

次のオペレーティングシステムは、サーバーのディスクドライブにプリインストール済みのオプションとして用意されています。このオプションの設定手順については、『Sun Fire X4470 M2 サーバーインストールガイド』を参照してください。

- Oracle Solaris 10 オペレーティングシステム、Solaris 10 09/10 以降

---

## サポートされるファームウェアおよびソフトウェア

Sun Fire X4470 M2 サーバーには、最新の Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) と BIOS ファームウェアが付属しています。ここでは、サポートされる Oracle ILOM および BIOS ファームウェアのバージョンについて説明します。次のセクションがあります。

- [6 ページの「ソフトウェアリリースのサポートされるファームウェア」](#)
- [7 ページの「ファームウェア更新」](#)
- [7 ページの「サポートされるソフトウェア」](#)

各 Oracle ILOM リリースの新機能の説明など、Oracle ILOM のドキュメントについては、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19860-01&id=homepage>

Sun Fire X4470 M2 サーバーに固有の Oracle ILOM のドキュメントと更新については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Fire X4470 M2 サーバー』を参照してください。

## ソフトウェアリリースのサポートされるファームウェア

表 2 に、このリリースのサーバーでサポートされる Oracle ILOM および BIOS ファームウェアのバージョンを示します。

表 2 サポートされる Sun Fire X4470 M2 サーバーファームウェア

ソフトウェアリリース	Oracle ILOM SP ファームウェア	BIOS ファームウェア
1.0	3.0.14.20	16.01.01.18

## ファームウェア更新

Oracle ILOM または BIOS ファームウェアを再インストールする必要がある場合、またはファームウェアの更新を入手する必要がある場合は、次の Web サイトにアクセスし、ファームウェアのダウンロードページに移動します。

<http://support.oracle.com>

## サポートされるソフトウェア

Sun Fire X4470 M2 サーバーのサポートされるソフトウェアは Oracle から入手できます。このソフトウェアには、サーバーと一緒に使用するデバイスドライバ、RAID 管理ソフトウェア、およびほかのユーティリティーが含まれています。必要なソフトウェアまたはソフトウェアの更新を入手するには、次のサイトにアクセスし、「Download (ダウンロード)」ページに移動します。

<http://support.oracle.com>

---

## サポートされるメモリー構成

ソフトウェアリリース 1.0 の場合、Sun Fire X4470 M2 サーバーは Dual-Rank 4GB および 8GB RDIMMS のみをサポートします。8G バイトの RDIMM が搭載されたライザーモジュールを 4 つ使用している 2 ソケットシステムでは、システムメモリーを最大で 256G バイトにすることができます。8G バイトの RDIMM が搭載されたライザーモジュールを 4 つ使用している 4 ソケットシステムでは、システムメモリーを最大で 512G バイトにすることができます。

---

## サポートされている PCIe カード

ここでは、Sun Fire X4470 M2 サーバーでサポートされる PCIe カードについて説明します。次の情報について説明します。

- 8 ページの「数量およびスロットの制限」
- 10 ページの「ファームウェアバージョンの最低要件」
- 11 ページの「内蔵 Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA の問題」
- 11 ページの「Sun Storage 10 GbE FCoE PCIe CNA の問題」

---

注 – Sun Fire X4470 M2 サーバーでサポートされる購入可能なカードを確認するには、Sun Fire x86 ラックマウントサーバーの Web サイトにアクセスし、Sun Fire X4470 M2 サーバーのページを参照してください。

(<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/sun-x86/overview/index.html>)

---

## 数量およびスロットの制限

表 3 に、Sun Fire X4470 M2 サーバーでサポートされている PCIe カードの数量およびスロットの制限を示します。「サポートされる最大数量」列は、Oracle がテスト済みでサポートしているカード数を示します。

表 3 PCIe カードの数量およびスロットの制限

PCIe カード	サポートされる最大数量	スロットの制限
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA (内蔵) SGX-SAS6-R-INT-Z SG-SAS6-R-INT-Z	1	スロット 4 でのみサポートされます。詳細は、11 ページの「 <a href="#">内蔵 Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA の問題</a> 」を参照してください。
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA (内蔵) SGX-SAS6-INT-Z SG-SAS6-INT-Z	1	スロット 2 でサポートされます。
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA (外付け) SGX-SAS6-EXT-Z SG-SAS6-EXT-Z	4	x4 電気インタフェーススロット (スロット 0 および 9) 以外のすべてのスロットでサポートされます。
StorageTek 8 Gb FC PCI-Express, QLogic SG-PCIE1FC-QF8-Z SG-XPCIE1FC-QF8-Z SG-PCIE2FC-QF8-Z SG-XPCIE2FC-QF8-Z	8	すべてのスロットでサポートされます。

表 3 PCIe カードの数量およびスロットの制限 (続き)

PCIe カード	サポートされる 最大数量	スロットの制限
StorageTek 8 Gb FC PCI-Express, Emulex SG-PCIE1FC-EM8-Z SG-XPCIE1FC-EM8-Z SG-PCIE2FC-EM8-Z SG-XPCIE2FC-EM8-Z	8	すべてのスロットでサポートされます。
Sun x4 PCI-Express Quad Gigabit Ethernet Low Profile アダプタ 4446A-Z-N X4446A-Z-N	8	すべてのスロットでサポートされます。
Sun Dual GigE Fibre, Low Profile アダプタ 7281A-2-N X7281A-2-N	8	すべてのスロットでサポートされます。
Sun Dual 10GbE SFP+ PCIe 2.0 Low Profile アダプタ 1109A-Z X1109A-Z	6	x4 電気インタフェーススロット (スロット 0 および 9) 以外のすべての スロットでサポートされます。
Sun PCI Express Dual-Port Quad Data Rate InfiniBand Host Channel アダプタ 4242A X4242A	4	x4 電気インタフェーススロット (スロット 0 および 9) 以外のすべての スロットでサポートされます。
Sun Storage 10 GbE FCoE PCIe Twin- Ax Converged Network アダプタ SG-PCIEFCOE2-Q-TA SG-XPCIEFCOE2-Q-TA	4	すべてのスロットでサポートされ ます。
Sun Storage 10 GbE FCoE PCIe SR Converged Network アダプタ SG-PCIEFCOE2-Q-SR SG-XPCIEFCOE2-Q-SR	4	すべてのスロットでサポートされ ます。

## ファームウェアバージョンの最低要件

表 4 に、PCIe カードのファームウェアバージョンの最低要件を示します。

表 4 PCIe カードのファームウェアバージョンの最低要件

PCIe カード	ファームウェアバージョンの最低要件	FRU のバージョンに含まれる
StorageTek 8 Gb FC PCI-Express QLogic SG-PCIE1FC-QF8-Z SG-XPCIE1FC-QF8-Z SG-PCIE2FC-QF8-Z SG-XPCIE2FC-QF8-Z	Preload Table v2.5.2	371-4324-02 371-4325-02
詳細の参照先: <a href="http://driverdownloads.qlogic.com/QLogicDriverDownloads_UI/Sun_Details.aspx?productid=928&amp;OSTYPE=Solaris&amp;oemid=124&amp;category=3">http://driverdownloads.qlogic.com/QLogicDriverDownloads_UI/Sun_Details.aspx?productid=928&amp;OSTYPE=Solaris&amp;oemid=124&amp;category=3</a>		
Sun PCI Express Dual-Port Quad Data Rate InfiniBand Host Channel アダプタ 4242A X4242A	2.7.8130	375-3606-03
詳細の参照先: <a href="http://www.mellanox.com/content/pages.php?pg=firmware_table_Sun">http://www.mellanox.com/content/pages.php?pg=firmware_table_Sun</a>		
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA (内蔵) SGX-SAS6-INT-Z SG-SAS6-INT-Z	05.00.17.00	375-3640-01 rev. 51

## 内蔵 Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA の問題

内蔵 Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID ホストバスアダプタ (HBA) (SGX-SAS6-R-INT-Z または SG-SAS6-R-INT-Z) を使用している場合、適切にバッテリーを冷却するために次の要件を満たす構成にします。

1. PCIe スロット 4 に HBA を取り付けます。スロット 4 では、適切にバッテリーが冷却されるよう、HBA 上のバッテリーを通気の良い方向に向けます。スロット 3 が x16 モードで動作できるように、HBA をスロット 2 に移動しないでください。
2. このように HBA を取り付けると、サーバーの周囲温度要件は次のようになります。
  - 動作時の温度: 5 °C - 32 °C (41 °F - 89.6 °F)

## Sun Storage 10 GbE FCoE PCIe CNA の問題

Windows オペレーティングシステムは、Sun Storage 10 GbE FCoE PCIe Twin-Ax/SR Converged Network アダプタ (SG-PCIEFCOE2-Q-TA か SG-XPCIEFCOE2-Q-TA、または SG-PCIEFCOE2-Q-SR か SG-XPCIEFCOE2-Q-SR) ではサポートされません。この既知の問題について詳しくは、[16 ページの「Windows の既知の問題」](#)を参照してください。

---

## ソフトウェアリリース 1.0 時点での既知の未解決の問題

ここでは、ソフトウェアリリース 1.0 の時点で解決していない既知の問題、説明、および回避方法について説明します。次の情報について説明します。

- [12 ページの「BIOS の既知の問題」](#)
- [12 ページの「Oracle Solaris の既知の問題」](#)
- [13 ページの「Oracle Linux、SUSE Linux Enterprise Server \(SLES\)、および Red Hat Enterprise Linux \(RHEL\) の既知の問題」](#)
- [16 ページの「Windows の既知の問題」](#)
- [17 ページの「Oracle VTS の問題」](#)
- [18 ページの「Oracle Hardware Installation Assistant の問題」](#)
- [20 ページの「ドキュメントの訂正」](#)

## BIOS の既知の問題

表 5 BIOS の既知の問題

CR	説明
7034209	<p><b>BIOS POST 時に、DIMM DDR トレーニングエラーに対して不正な IPMI 警告コードが生成される</b></p> <p><b>問題:</b> システムの BIOS POST 時に、DIMM DDR トレーニングエラーに対して不正な IPMI 警告コードが生成されます。Service LED がエラーを示し、0x0d WARN_DD_TRAINING_ERROR 警告の後の SEL ログエントリに次の警告コードが表示されます。 0x02 - WARN_DIMM_MISMATCH 0x03 - WARN_USER_RANK_DISABLE 0x05 - WARN_MEMBIST_ECC_SYMBOL 0x09 - WARN_THROT_INSUFFICIENT</p> <p><b>影響を受けるソフトウェア:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• リリース 1.0</li> </ul> <p><b>対処方法:</b> これらのエラーがシステムに与える悪影響はないため、無視しても問題ありません。</p>

## Oracle Solaris の既知の問題

表 6 Oracle Solaris の解決していない既知の問題

CR	説明
7013847	<p><b>Intel SpeedStep の機能が、2 ソケット CPU 構成で実行されている Solaris 10 09/10 で動作しない</b></p> <p><b>問題:</b> Intel SpeedStep の機能が、2 ソケット CPU 構成で実行されている Solaris 09 10/10 で動作しません。</p> <p><b>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Oracle Solaris 10 9/10</li> <li>• リリース 1.0</li> </ul> <p><b>対処方法:</b> この問題を解決するには、設定ファイル /etc/power.conf を編集し、<b>cpupm enable</b> を <b>cpupm enable poll-mode</b> に変更します。</p>

# Oracle Linux、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、および Red Hat Enterprise Linux (RHEL) の既知の問題

表 7 Oracle Linux、SLES、および RHEL の解決していない既知の問題

CR	説明
6943880	<p data-bbox="511 447 1308 505"><b>Oracle Linux 5.5、RHEL 5.5、および SLES11 SP1 の使用できる割り込みベクトルの数が限定されている</b></p> <p data-bbox="511 522 1308 777"><b>問題:</b> インスタンスごとに複数の MSI ベクトルを使用するドライバのある高帯域幅 I/O カードが多数含まれる、特定のハードウェア構成では、カーネルで割り込みが不足する場合があります。この状況によって、起動時に長い一時停止またはシステムハングが発生する場合や、必要な割り込みを取得できないドライバインスタンスが原因で I/O デバイスが使用できない状態になる場合があります。この状況は、特に、SR-IOV を使用する複数の InfiniBand および 10 GbE ネットワークカードのある Xen Hypervisor および Dom0 で発生する可能性があります。SMP カーネルでも発生する場合があります。</p> <p data-bbox="511 795 1308 956"><b>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</b></p> <ul data-bbox="511 829 708 956" style="list-style-type: none"> <li>• Oracle Linux 5.5</li> <li>• RHEL 5.5</li> <li>• SLES11 SP1</li> <li>• リリース 1.0</li> </ul> <p data-bbox="511 973 1308 1289"><b>対処方法:</b> カーネル引数 <code>pci=noms</code> を使用して起動すると、UDEDEV での長い一時停止やシステムハングが発生することなくシステムを起動できます。ただし、システムは関数ごとに単一の IO-APIC PIN 割り込みを使用するよう強制されます。IO-APIC 割り込みではなく MSI が必要な場合は、問題を軽減するために次の方法のいくつかを組み合わせる必要がある場合があります。</p> <ul data-bbox="511 1156 1308 1289" style="list-style-type: none"> <li>• 一部のドライバをブラックリストに登録する。</li> <li>• 特定のドライバ (<code>mlx4_core : infiniband</code> など) を強制的に最後にロードし、そのドライバで、最適な MSI 数のベクトルを要求するコードを利用します。そのようなベクトルを使用できない場合、ベクトル数を少しずつ減らして再試行してください。</li> </ul>

表 7 Oracle Linux、SLES、および RHEL の解決していない既知の問題 (続き)

CR	説明
7012116	<p data-bbox="431 244 1200 270"><b>サーバーで RHEL 6.0 が実行されているときにエラーメッセージを受信する</b></p> <p data-bbox="431 291 486 317"><b>問題:</b></p> <p data-bbox="431 322 1200 374">サーバーで RHEL 6.0 が実行されているときに、次のメッセージを受信することがあります。</p> <pre data-bbox="431 387 1200 522">EDAC MC: Ver: 2.1.0 Sep 1 2010 PCI: Discovered peer bus ff PCI: Discovered peer bus f3 EDAC i7core: Driver loaded. i7core_edac: probe of 0000:80:14:0 failed with error -22</pre> <p data-bbox="431 543 1051 569"><b>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</b></p> <ul data-bbox="431 574 586 635" style="list-style-type: none"> <li>• RHEL 6.0</li> <li>• リリース 1.0</li> </ul> <p data-bbox="431 656 529 682"><b>対処方法:</b></p> <p data-bbox="431 687 1222 739">これは仕様どおりの動作であり、このエラーメッセージを無視しても問題ありません。</p>
7031564	<p data-bbox="431 756 1165 808"><b>I/O の処理量が多いときに lspci -vv コマンドを繰り返し実行すると、RHEL 6.0 OS が実行されているシステムがリセットされることがある</b></p> <p data-bbox="431 829 486 855"><b>問題:</b></p> <p data-bbox="431 861 1215 965">I/O の処理量が多いときに lspci -vv コマンドを繰り返し実行すると、RHEL 6.0 が実行されているシステムがリセットされることがあります。この問題は、SGX-SAS6-INT-Z または SGX-SAS6-R-INT-Z ホストバスアダプタ (HBA) カードがシステムに装着されている場合に発生します。</p> <p data-bbox="431 986 1051 1012"><b>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</b></p> <ul data-bbox="431 1017 758 1078" style="list-style-type: none"> <li>• RHEL 6.0 および SLES 11 SP1</li> <li>• リリース 1.0</li> </ul> <p data-bbox="431 1098 529 1124"><b>対処方法:</b></p> <ul data-bbox="431 1130 1222 1216" style="list-style-type: none"> <li>• システムがアイドル状態の場合にのみ、lspci -vv コマンドを実行してください。</li> <li>• 短い間隔で lspci -vv コマンドを実行しないでください。</li> </ul>

表 7 Oracle Linux、SLES、および RHEL の解決していない既知の問題 (続き)

CR	説明
7020234	<p data-bbox="511 244 1308 326"><b>SGX-SAS6-R-INT-Z または SGX-SAS6-INT-Z HBA を使用して構成されたシステムで RHEL 5.5 および LSI MegaRAID Storage Manager を実行している場合、エラーメッセージを受信する</b></p> <p data-bbox="511 343 1308 369"><b>問題:</b></p> <p data-bbox="511 378 1308 487">デフォルトの RHEL 5.5 インストールオプションとデフォルトの Security Enhanced Linux (SELinux) ソフトウェア構成設定を使用して、RHEL 5.5 オペレーティングシステムを実行している場合、次のエラーメッセージを受信することがあります。</p> <pre data-bbox="511 496 1308 578">kernel: mrmonitord[6058]: mrmonitord[15918]: segfault at 00000000ffffffff rip 00000000ffffffff rsp 00000000ffdab11c error 14</pre> <p data-bbox="511 586 1308 668">このエラーの理由は、SELinux によって、テキストの配置変更が必要な /usr/lib/libAlertStrings.so.1.0.0 を mrmonitord がロードできないためです。</p> <p data-bbox="511 677 1308 786">デフォルトの SELinux ソフトウェアモードとポリシーのままではインストールできないため、グラフィカルインタフェースの実行に必要な SELinux Streams (LiS) インタフェースおよび RHEL 5.5 を適切にインストールできない、というのがこの問題の原因です。</p> <p data-bbox="511 803 1308 829"><b>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</b></p> <ul data-bbox="511 838 899 933" style="list-style-type: none"> <li>• RHEL 5.5</li> <li>• MegaRAID Storage Manager 8.00-5</li> <li>• リリース 1.0</li> </ul> <p data-bbox="511 951 1308 1060">LiS インタフェースを適切にインストールできるようにするには、次に示す回避方法のいずれかまたは両方を実行します。この回避方法は、問題のエラーメッセージの発生を回避する基本的な手順です。詳細については、<a href="http://www.redhat.com">www.redhat.com</a> の RHEL 5.5 OS のドキュメントを参照してください。</p> <p data-bbox="511 1069 628 1095"><b>対処方法 1:</b></p> <ol data-bbox="511 1104 1308 1185" style="list-style-type: none"> <li>1. GRUB メニューのカーネル行に <code>selinux=0</code> という値を追加して、システム起動時に SELinux ソフトウェアを一時的に無効にします。</li> <li>2. 次にシステムを起動します。</li> </ol> <p data-bbox="511 1229 628 1255"><b>対処方法 2:</b></p> <ol data-bbox="511 1263 1308 1373" style="list-style-type: none"> <li>1. /etc/selinux/config ファイルを編集し、SELinux ソフトウェアのモードを <b>enforcing</b> から <b>disabled</b> または <b>permissive</b> に変更して、SELinux ソフトウェアを永続的に無効にします。たとえば、次のように表示されます。</li> </ol> <pre data-bbox="511 1381 1071 1407"># vi /etc/selinux/config SELINUX=disabled</pre> <p data-bbox="511 1416 571 1442">または</p> <pre data-bbox="511 1451 1099 1477"># vi /etc/selinux/config SELINUX=permissive</pre> <ol data-bbox="511 1486 813 1512" style="list-style-type: none"> <li>2. システムをリブートします。</li> </ol>

## Windows の既知の問題

表 8 Windows の既知の未解決の問題

CR	説明
7022807	<b>Windows 2008 R2 システムで IPMIflash を使用しているときにファームウェアのアップグレードに失敗する</b>
	<b>問題:</b> ファームウェアのアップグレードプロセス時に、IPMIflash 1.8.10.4 for Windows 2008 R2 (64 ビット) でエラーが発生します。サービスプロセッサの状態は一貫しており、副作用はありません。
	<b>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows Server 2008 R2</li> <li>• IPMIflash 1.8.10.4</li> <li>• リリース 1.0</li> </ul>
	<b>対処方法:</b> ILOM CLI または ILOM インタフェースを使用して、ILOM ファームウェアの更新を実行します。手順については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 – CLI 手順ガイド』または『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 – Web 手順ガイド』の「Oracle ILOM ファームウェアのアップロード」を参照してください。これらのドキュメントについては、次の URL を参照してください。 <a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19860-01&amp;id=homepage">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19860-01&amp;id=homepage</a>
7026707	<b>Service Processor (SP) を再起動すると、Windows 2008 R2 システムでシステムのクラッシュが発生する</b>
	<b>問題:</b> サービスプロセッサを再起動すると、Windows 2008 R2 オペレーティングシステムが実行されているシステムでシステムのクラッシュが発生することがあります。
	<b>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows Server 2008 R2</li> <li>• リリース 1.0</li> </ul>
	<b>対処方法:</b> ボード上の Intel 82576 ネットワークインタフェースコントローラ (NIC) の Windows ドライバをバージョン 11.4.7.0 以降にアップグレードします。これらのバージョンのツールとドライバのファームウェアには、最新の Windows ドライバが付属しています。最新のツールとドライバのファームウェアをダウンロードする手順については、 <a href="#">3 ページの「製品のダウンロード」</a> を参照してください。

表 8 Windows の既知の未解決の問題 (続き)

CR	説明
6993982	<p>システムを再起動すると、<b>Sun Storage 10 GbE FCoE Converged Network アダプタ (CNA)</b> に接続されているすべてのディスクにアクセスできなくなる</p> <p><b>問題:</b> Windows オペレーティングシステムが実行されている Sun Fire X4470 M2 サーバーに Sun Storage 10 GbE FCoE PCIe CNA をインストールし、システムを再起動すると、その CNA に接続されているすべてのディスクにアクセスできなくなります。</p> <p><b>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows Server 2008 SP2/R2</li> <li>• リリース 1.0</li> </ul> <p><b>対処方法:</b> この問題の対処方法はありません。この Windows オペレーティングシステムは Sun Storage 10 GbE FCoE CNA でサポートされません。</p>

## Oracle VTS の問題

表 9 Oracle VTS の解決していない既知の問題

CR	説明
7016229	<p><b>Oracle VTS の実行中にエラーメッセージが報告される</b></p> <p><b>問題:</b> Oracle VTS の実行中に次のメッセージが報告されます。 Sun OEM Get LED command Failed: Destination unavailable</p> <p><b>影響を受けるソフトウェア:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Oracle VTS 7.0</li> <li>• リリース 1.0</li> </ul> <p><b>対処方法:</b> このエラーがシステムに与える悪影響はないため、無視しても問題ありません。</p>

# Oracle Hardware Installation Assistant の問題

表 10 Oracle Hardware Installation Assistant の解決していない既知の問題

CR	説明
7039837	<p><b>Windows 2008 R2 オペレーティングシステム (OS) が実行されているシステムの使用時に、Oracle Hardware Installation Assistant が自動実行されない</b></p> <p><b>問題:</b> Oracle Hardware Installation Assistant には、Windows ベースシステムでブート機能を持つ USB フラッシュドライブを作成する処理を支援する自動実行ユーティリティが付属しています。Windows 2008 R2 の手順については、次の URL の『Oracle Hardware Installation Assistant 2.5 User's Guide for x86 Servers』を参照してください。 (<a href="http://download.oracle.com/docs/cd/E19593-01/821-2520/p82.html#scrolltoc">http://download.oracle.com/docs/cd/E19593-01/821-2520/p82.html#scrolltoc</a>)</p> <p>現時点で、Windows 2008 R2 OS 用の Oracle Hardware Installation Assistant の自動実行ユーティリティは機能しません。Oracle Hardware Installation Assistant CD/DVD の使用時、または ISO イメージファイルのマウント時に、最初のアプリケーション画面が表示されません。</p> <p><b>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Windows Server 2008 (64 ビット) SP2</li><li>• Windows Server 2008 (64 ビット) R2</li><li>• Oracle Hardware Installation Assistant</li><li>• リリース 1.0</li></ul> <p><b>対処方法:</b> Linux ベース (Oracle、Red Hat、または SuSE) のシステムまたは Windows XP システムを使用して、Oracle Hardware Installation Assistant USB フラッシュドライブを作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Linux の手順については、次の URL の『Oracle Hardware Installation Assistant 2.5 User's Guide for x86 Servers』を参照してください。 (<a href="http://download.oracle.com/docs/cd/E19593-01/821-2520/p81.html#scrolltoc">http://download.oracle.com/docs/cd/E19593-01/821-2520/p81.html#scrolltoc</a>)</li><li>• Windows XP の手順については、次の URL の『Oracle Hardware Installation Assistant 2.5 User's Guide for x86 Servers』を参照してください。 (<a href="http://download.oracle.com/docs/cd/E19593-01/821-2520/p83.html#scrolltoc">http://download.oracle.com/docs/cd/E19593-01/821-2520/p83.html#scrolltoc</a>)</li></ul>

表 10 Oracle Hardware Installation Assistant の解決していない既知の問題 (続き)

CR	説明
7035429	<p><b>Windows 2008 SP2 または R2 オペレーティングシステムのインストール後に、システムのデバイスマネージャーに不明なデバイスが表示される</b></p> <p><b>問題:</b> Oracle Hardware Installation Assistant を使用して Windows 2008 SP2 または R2 オペレーティングシステムをインストールした後に、システムのデバイスマネージャーに不明なデバイスが表示されます。</p> <p><b>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows Server 2008 SP2 (64 ビット)</li> <li>• Windows Server 2008 R2 (64 ビット)</li> <li>• Oracle Hardware Installation Assistant</li> <li>• リリース 1.0</li> </ul> <p><b>対処方法:</b> この不明なデバイスがシステムに与える悪影響はないため、無視しても問題ありません。</p>
7039504	<p><b>Oracle Hardware Installation Assistant の generate-netboot.img.sh ファイルが機能しない</b></p> <p><b>問題:</b> Oracle Hardware Installation Assistant のルートフォルダにある generate-netboot.img.sh ファイルが機能しません。Oracle Hardware Installation Assistant の PXE インストールに使用される netboot.img を作成するために、generate-netboot.img.sh ファイルは使用されます。</p> <p><b>影響を受けるソフトウェア:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Oracle Hardware Installation Assistant</li> <li>• リリース 1.0</li> </ul> <p><b>対処方法:</b> Oracle Hardware Installation Assistant netboot イメージファイル (Oracle_HIA-2_5_7_1-Sun_Fire_X4470_M2-neboot.zip) を使用します。このファイルは今回のソフトウェアリリースに含まれ、製品の Web サイトからダウンロードできます。</p>

# ドキュメントの訂正

表 11 ドキュメントの正誤情報

CR	説明
なし	<p><b>Sun Fire X4470 M2 のドキュメントに、16GB RDIMMS がシステムでサポートされているという誤記がある</b></p>
	<p><b>問題:</b></p> <p>次の Sun Fire X4470 M2 のドキュメントに、16GB RDIMMS がシステムでサポートされているという誤記があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>『Sun Fire X4470 M2 サーバー設置マニュアル』</li><li>『Sun Fire X4470 M2 サーバーサービスマニュアル』</li></ul> <p>ソフトウェアリリース 1.0 では、Dual-Rank 4GB および 8GB RDIMM のみがサポートされます。2G バイトの RDIMM が搭載されたライザーモジュールを 4 つ使用している 1.0 ソケットシステムでは、システムメモリーを最大で 256G バイトにすることができます。8G バイトの RDIMM が搭載されたライザーモジュールを 4 つ使用している 4 ソケットシステムでは、システムメモリーを最大で 512G バイトにすることができます。</p>
	<p><b>影響を受けるソフトウェア:</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>リリース 1.0</li></ul>
	<p><b>対処方法:</b></p> <p>ドキュメントの 16GB RDIMM に関するすべての記載を無視してください。16GB RDIMM のサポートは、今後のソフトウェアリリースで追加される予定です。</p>